

# 心筋梗塞 AIで発見

## 徳大グループが新技術



楠瀬賢也助教

徳島大学病院循環器

内科の楠瀬賢也助教

(39)らの研究グループ

が、人工知能(AI)

を活用し、心臓超音波

(心エコー)検査の画

像から心筋梗塞がどの

部位で起きているかを

瞬時に見つける技術を

開発した。診断の精度

はベテランの医師を上

回るという。患者の早

期治療につながるほ

か、医師の負担軽減や

誤診をなくす効果が期

待される。

研究グループは、心

筋梗塞を発症している

か、その疑いがある患

者

者の心エコー画像計1

200枚を用意。この

うち960枚を「ディ

ープラーニング(深層

学習)」と呼ばれる技

術を使ってAIに学習

させた。その上で、残

りの画像240枚をA

Iに解析させた結果、

97%の精度で心筋梗塞

が起きている部位を正

しく見つけた。

一方、同じ240枚

の画像を、臨床経験が

10年以上のベテラン医

師と、経験が1年未満

の研修医に診断させた

ところ、精度はそれぞ

れ95%と83%。AIを

活用すると、医師が見

誤りやすい部位でも正

確に診断できることが

分かった。

心エコー検査は心疾

患

## エコー画像から瞬時に 早期治療や誤診防止期待

患が疑われる場合に実  
施し、画像は医師が目  
視で診断している。心  
筋梗塞は命に関わる疾  
患だけに、自動診断技  
術の早期開発が求めら  
れている。

研究成果は、米国の  
心臓学会誌に16日付で  
掲載された。楠瀬助教  
は「持ち運び可能な検  
査機器にAIが搭載さ  
れば、医師の少ない  
へき地でも簡単に診断  
できる。実用化に向け  
て、さらに精度を高め  
たい」と話した。

心エコー検査に詳し  
い北海道大学病院循環  
器内科の岩野弘幸助教  
は「画期的な成果だ。  
AIがガイドになり、  
医師が再度確認すれ  
ば、より正確な診断が  
できるようになる」と  
評価した。

(岸和弘)